

がれき、本格受け入れ開始 秋田・大仙市

秋田県大仙市は23日、東

日本大震災で発生した岩手県宮古市のがれきの本格受け入れを始めた。2014年3月末まで最大5200トの処理を引き受ける予

定。環境省によると、すでに青森、山形、東京の1都2

県が震災がれきを受け入れており、このうち青森と山形の受け入れ先は民間で、

自治体による受け入れは2例目。

大仙市内の焼却施設にはこの日、木くずなど10トが運び込まれ、一般ごみと混合して焼却が始まった。灰は市内の最終処分場に埋め立てる。

大仙市は3月下旬、計20トを試験焼却し、焼却灰や排ガス、周辺の土壌や地下水の放射性物質濃度にほとんど変化がないことを確認。住民からも目立った反対がなく、本格受け入れを決めた。放射性物質濃度の測定は続ける。

秋田県は岩手県のがれき約6万トを受け入れる方針で、本格受け入れは大仙市が初めて。仙北市が不燃物

の引き受けを表明しているほか、秋田市が5月に試験焼却を実施する予定。